

2006年ダカールラリー プレビュー
待望の母国WRC初出場! 「ラリー・ジャパン2005」
ランサーエボリューション、2005年APRCタイトル獲得!
www.ralliart.com



ダカールラリー 6連覇を狙え。

前人未到の通算11勝&6連覇を目指し、
12月31日、ポルトガル・リスボンをスタート!



【2006年ダカールラリー プレビュー】

白熱、必至。

台頭するライバルを、王者 三菱自動車が迎え撃つ!

三菱自動車が偉業達成を目指す2006年ダカールラリー(通称パリダカ)がいよいよ開催される。その「偉業」とは、同一チームによる史上初の6連覇。すでに三菱自動車はパリダカ通算10勝という最多勝記録を持っており、その更新も併せて狙っていくこととなる。

この一戦に三菱自動車は「チーム・レプソル三菱ラリーアート」としてエントリー。「MPR12」の開発コードを持つ2006年仕様のパジェロエボリューション(スーパープロダクション仕様)を計4台送り込む布陣を敷く。これらを図るドライバーラインナップは、日本のエースである増岡浩を筆頭とする4人。特に増岡には2003年大会以来となる通算3度目の総合優勝の期待が集まる。

今回のダカールラリーは28回目の開催で初めてポルトガルからのスタートとなり、大会正式名には冠スポンサーについた同国のロケット組運営組織の名が冠せられ「ユーロミルボア・ダカール2006」となった。ラリー

は12月31日(土)に首都リスボンをスタートし、同日と1月1日(日)はスペインのマラガからポルトガル国内でスペシャルステージを実施。その後、フェリーで地中海を渡り、2日(月)からアフリカでのステージが始まる。休息日を迎えるのは8日(日)、モーリタニアの首都大西洋沿岸の街、ヌアクショット。そして15日(日)、セネガルの首都ダカールにフィニッシュする計16日間の戦いとなる。

三菱自動車技術開発センターのモータースポーツチームを率いる中山修リーダーは「今回のパリダカはフォルクスワーゲンと真っ向からぶつかり合う戦いになるでしょう」と語る。「彼らはものすごい予算と時間をつぎ込み、開発を進めてきました。吸気リストラクターの影響をほとんど受けないディーゼルエンジンを使用する彼らのスピードは脅威です。しかし、こうした戦いに打ち勝つことこそ、モータースポーツの醍醐味があり

ます」

また、三菱自動車のモータースポーツ統括会社MMSPの鳥居勲社長は「チームの面々には『勝負はアフリカで』と言っています。我々は総合力の高さでライバルたちを打ち破り、必ずや6連覇を手にしたと思っています」と語る。

近年にない激戦必至の2006年ダカールラリーに挑む三菱自動車。その戦いから目が離せない。

2006年ダカールラリー開催概要

スタート：2005年12月31日(土) ポルトガル・リスボン
通過国：ポルトガル スペイン モロッコ 旧スペイン領サハラ
モーリタニア マリ ギニア セネガル
ゴール：2006年1月15日(日) セネガル・ダカール
SS数：15
SS合計距離：4,813km
総走行距離：9,043km

本情報は2005年11月22日主催者発表の情報に基づいて作成しております。

チーム・レプソル三菱ラリーアート

2006年ダカールラリー 出場体制

【出場車両】

三菱パジェロエボリューション(MPR12)



2003年にスーパープロダクション規定が施行されて以降、パリダカで無敗を誇るチャンピオンマシン。それが「パジェロエボリューション」だ。初期モデルのMPR10から車両規定の小変更に合わせて進化を続け、今回の2006年大会を戦うマシンは「MPR12」に発展。3997ccに排気量を拡大して搭載しているV6の6G75型MIVECエンジンは耐久信頼性をさらに向上させながら、吸排気系や動弁系を改良し、一段と低い回転域からのフラットトルクを実現。サスペンションは油圧式スタビライザーの禁止に対応して、ON/OFF切り替え機構を持つ機械式スタビライザーを前後に採用。サスペンションアームのレイアウトも見直し、ダンパーもこれに合わせて新型とするなどして一層高い走破性を確保している。

MPR12は2005年6月のモロッコテストから走行を始めており、半年以上に及ぶ成熟期間と度重なる実戦出場を経て、満を持して2006年ダカールラリーの本番に臨む。

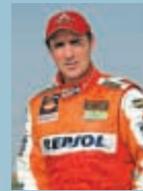
三菱自動車の

2006年ダカールラリー情報はここから

→三菱自動車モータースポーツ公式サイト
<http://www.mitsubishi-motors.com/motorsports/j/>

【チーム体制&ドライバーラインナップ】

チーム代表:鳥居勲 チームディレクター:ドミニク・セリエス
メインスポンサー:レプソル(スペインに本拠を置く石油会社)



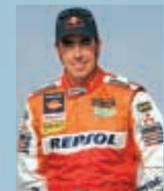
ステファン・ペテランセル
出身:フランス
年齢:40歳
コ・ドライバー:
ジャン・ポール・コト(フランス)
主な経歴:
ダカールラリー2輪部門
総合優勝6回
2004&2005年ダカールラリー
4輪部門 総合優勝



増岡 浩
出身:日本(埼玉県)
年齢:45歳
コ・ドライバー:
バスカル・メモ(フランス)
主な経歴:
2002&2003年ダカールラリー
4輪部門 総合優勝
2001&2004年ダカールラリー
4輪部門 総合2位



リュック・アルファン
出身:フランス
年齢:40歳
コ・ドライバー:
シル・ピカール(フランス)
主な経歴:
1997年アルペンスキー
ワールドカップチャンピオン
2005年ダカールラリー
4輪部門 総合2位



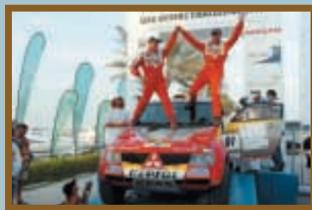
ホアン・ナニ・ロマ
出身:スペイン
年齢:33歳
コ・ドライバー:
アンリ・マーニョ(フランス)
主な経歴:
2004年ダカールラリー
2輪部門 総合優勝
2005年パリ・スペイン
4輪部門 総合優勝

三菱自動車から2006年ダカールラリーに出場するドライバーは4名。エースを張るのは増岡浩とステファン・ペテランセル。今回で通算18回目のパリダカ出場となる増岡は、2002年と2003年のファイナー。過去2年は逃すこととなった勝利を再び手にすべく、心身ともに充実した状態で決戦に挑む。その過去2年のパリダカを制し

たペテランセルは当然のこと3連覇を狙う。チームメイトとなるのは、リュック・アルファンとホアン・ナニ・ロマ。片やアルペンスキー、片や2輪と異種競技における元王者同士だが、ともに2005年のクロスカントリーラリーイベントで総合優勝をマーク。まさに万全の体制を敷き、三菱自動車は通算11回目のパリダカ制覇を目指す。



FIA インターナショナルカップ・クロスカントリー・パハ
第5戦パハ・アンタ・ダ・セラ500・ポルトガル
リュック・アルファン 総合優勝



FIA クロスカントリーラリー・ワールドカップ
第6戦UAEデザートチャレンジ
ステファン・ペテランセル 総合優勝

アルファン、そしてペテランセルが前哨戦を制覇!

ポルトガルではリュック・アルファンが、UAEではステファン・ペテランセルがそれぞれ総合優勝。いずれも2006年パリダカに向けた実戦トレーニングと位置づけて出場した三菱自動車チームだが、その強さを改めて内外に印象づけることとなった。



過去3年、フルワークス体制でパリダカに挑みながら三菱自動車の前に敗れ続けてきたフォルクスワーゲンは、必勝を期して膨大な量のテストを実施。元WRC王者のカルロス・サインツ(上写真左)を陣営に加え、6台体制を敷いて乗り込んでくるものと見られている。



増岡浩 連載コラム

vol.3

砂漠への招待状。

もう2006年のパリダカが目前に迫ってきました。毎年、すべてをこの一戦にかけているわけですから、最高にワクワクしているところです。

僕は10月中旬にポルトガルで行われたFIAクロスカントリーラリー・パハに出場したのですが、ここではものすごい豪雨に見舞われて、それが原因でリタイアしてしまいました。ぬかるんだ路面から跳ね上げられた石が噛み込んで、オルタネーターの駆動ベルトが切れて、電力がゼロになってしまったんです。2日目の午後でした。まあ、結果は残念なものだったんですけど、今度のパリダカもポルトガルで同じようなコースを走りますし、また豪雨にならないとも限らない。砂漠の中では1万km以上走ってもピクともしないパジェロエボリューションですけど、あんな水やドロとの戦いは想定外だったので、本当にいい収穫になりました。

11月には、ステファン・ペテランセルが優勝したUAEデザートチャレンジの後、僕とリュック・アルファンも

UAEに行って砂丘越えのテストをやりました。前回のパリダカからタイヤの空気圧調整装置が使用禁止になったので、どういふ条件なら空気圧はどのくらいがいいか、といったことをいろいろ確認しておいたわけです。

というわけで、あとはもう本番を迎えるだけです。マシンやチームの仕上がりはここ数年の中でもベスト! 僕自身の体調もバッチリです。以前なら、この日はフルアタックして、この日は少し抑えて、と緩急をつけて走っていたパリダカですが、今大会のコースは全体的にハイスピード傾向で差がつきにくい。なので、毎日95%くらいでのアタックを続けて、取りこぼさないように戦っていく必要があると思っています。

前は12年ぶりのリタイアということになってしまいましたが、その雪辱も兼ねて、今度のパリダカでは絶対に勝ちたい。「三菱自動車で6年連続、11回目の総合優勝をプレゼントするのは俺だ!」という気持ちで頑張ります。みなさん、ぜひ応援してください!!!

それから私事なんですけど、先日、新しい愛車「アウトランダー」が納車されました。SUVでありながら走りの次元がすごく高いし、走っていて気持ちよく、とても楽しくなります。もちろん、SUVとしてしっかり作られていますから、家族が乗っても荷物を積んでも快適。おまけにコストパフォーマンスが素晴らしい。三菱らしい、とってもいいクルマで、とても満足しています。まだ試されたことのない方は、とにかく一度試乗されることをお勧めしますよ。



GCB第5戦パハ・アンタ・ダ・セラ500・ポルトガルでカルロス・サインツと情報交換中。以前は三菱ストラーダ(L200)をドライブしていた元チームメイトのカルロスですが、2005年大会から日産のピックアップにスイッチして出場を続けています。



右のQRコードからもご利用いただけます。



WRC第13戦 / PWRC第7戦「ラリー・ジャパン2005」

十勝が赤く染まった一週間

三菱自動車 悲願の母国WRC初出場、成る

2005年WRC第13戦ラリー・ジャパン。それはチーム三菱自動車モータースポーツがWRCを戦う姿を母国・日本のファンの前でついに披露できた記念碑的イベントだった。

この重要な一戦に、三菱自動車は最新鋭ワークスマシン「ランサーWRC05」を3台投入。ハリ・ロバンペラ、ジル・パニッツィ、ジジ・ガリの3人は、ラリー前の日曜日に開催された2つのイベント、三菱自動車十勝研究所とそれに隣接した十勝四駆ランドで行われた「三菱自動車エンジョイミーティング」と帯広三菱自動車販売の音更店でのトークショー＆サイン会に参加。このほか、彼らドライバーたちは折りに触れてサインに応じるなど、熱心にファンサービスに務めていた。

ラリーは、9月29日夜のセレモニアルスタートで幕を開け、翌

30日の朝から競技が始まった。戦闘力が大幅に向上したランサーWRC05は、ガリがSS5でトップタイムをマークしたのを皮切りに好調な走りを見せ、leg2終了時点でガリが4位、ロバンペラが5位に。だが最終日、ガリはサスペンションを壊して痛恨のリタイア。ロバンペラはECUトラブルに見舞われながらも5位をキープしてフィニッシュした。

「目標であった表彰台まであと一歩だったので、最後のトラブルは残念です。しかし、リザルト以上の手応えを得られました」とチーム三菱自動車モータースポーツ代表の鳥居勲は語る。

実際、最終戦ラリー・オーストラリアではロバンペラが総合2位に入り、ランサーWRC05の戦闘力向上を改めて証明。チーム、マシンともにさらに強化される2006年の飛躍が期待される。



ジャパン初出場のガリはトリッキーなコースと深い溝と格闘しながらも積極的な走りを披露



全国の三菱ファンからのメッセージが書き込まれた応援フラッグにロバンペラとピエティライネも大感激



ラリー前に開かれた「三菱自動車エンタラントミーティング」にワークスドライバーたちはハッピー姿で出席



ついに第一線を勇退するアンドリュー・コワンに三菱自動車の相川哲郎常務から記念バリエーションが手渡された



帯広三菱自動車販売音更店で行われたトークショー＆サイン会。大勢の熱心なファンで大賑わいとなった



セレモニアルスタート前のラリーショーでもサイン会を実施。戦い前にも精神的にファンサービス



ロバンペラはすべての札内スーパーSSを制するなど合計4回のトップタイムをマーク。総合5位という結果以上の手応えをつかんでみせた



ガリは全国キャラバンで寄せられた応援メッセージ満載のマシンで出場。「みなさんの応援こそ僕らが本当に必要なものです」と語った



エンジョイミーティングでは三菱自動車十勝研究所の高速周回コース会場に使用。最大45度の傾斜角を体感できる貴重な機会となった



約4か月ぶりの実戦となったパニッツィ。札内のスーパーSSでは赤く染まった三菱応援団スタンドからの声援を受けて力走を見せた

第13戦ラリー・ジャパン

9月29日～10月2日

ハリ・ロバンペラ：総合5位
ジル・パニッツィ：総合11位
ジャンルイジ・ガリ：リタイア

シリーズ終盤戦レビュー

FIA WORLD RALLY CHAMPIONSHIP



第12戦ラリー・グレートブリテン

9月15～18日

ロバンペラ：総合4位 / ガリ：総合13位



第14戦ラリー・フランス/ツール・ド・コルス

10月20～23日

ロバンペラ：総合10位 / ガリ：総合9位 / パニッツィ：リタイア



第15戦ラリー・スペイン / カタルニアラリー

10月27～30日

ロバンペラ：総合10位 / ガリ：リタイア



第16戦ラリー・オーストラリア

11月10～13日

ロバンペラ：総合2位 / ガリ：総合5位

WRCはシーズン終盤を迎え、マシン改良も実を結び、ロバンペラがグレートブリテン4位、ジャパン5位と2戦続けて入賞。グラベルでの確実なポテンシャルアップを印象づけてきた。そしてハイライトは最終戦オーストラリア。ロバンペラは序盤から快走を見せて総合2位でフィニッシュし、3位を得た開幕戦モンテカルロ以来となる表彰台をチームにもたらした。また、経験を積むことを最大の目的として出走したガリも自己ベストタイの5位に入った。

チーム三菱自動車モータースポーツの鳥居代表は、「最良の結果を得てシーズンを締めくくることができました。この冬の間もマシン開発を一層推し進め、2006年こそ優勝を目指します」と力強く語っている。

PWRC

FIAプロダクションカー世界ラリー選手権

FIA PRODUCTION CAR WORLD RALLY CHAMPIONSHIP

奴田原文雄、母国で自己ベストリザルトを刻む

2年目の開催となったラリー・ジャパンでは、グループN(市販車無改造カテゴリ)の最高峰であるPWRCが初めて併催され、日本のエースである奴田原文雄が2位に入って自己ベスト記録を更新した。優勝はスバルの新井敏弘に譲ったものの、奴田原はleg1をトップで終える快走を披露。全26カ所のSSのうち、10カ所でPWRCのトップタイムをマークしてみせ、母国のファンに世界を戦う実力をアピールした。

続く最終戦オーストラリアでの奴田原はPWRC4位でフィニッシュ。シリーズランキングでも4位に食い込み、同9位に終わった前年からの大幅な成長を印象づけた。なお、奴田原はランサーエボリューションIXで全日本ラリー選手権4輪駆動部門Cクラスも制覇。実に4年連続、6回目の同クラスタイトルを獲得している。



豪快に跳ぶ奴田原。3回の札内スーパーSSをすべて制し「スーパーSSキング」の座を不動のものに



セッティングも決まり、ライバルを圧倒するスピードを見せたKATSU。それだけにleg1でのリタイアは痛恨の極みだった



グループNトップで戻ってきたleg1日中のサービスで鳥居代表と握手を交わすKATSU。その速さにはPWRCの強豪も驚いていた

「三菱自動車ディーラーチーム」が激走！三菱自動車、三菱自動車販売協会ならびにラリーアートは、1993年から展開してきたディーラーメカニックの国際ラリー派遣をラリー・ジャパンで実施。万全の整備を受けたマシンを駆り、田口勝彦がleg1で一気に3度トップタイムをマークし、強豪ぞろいのPWRC勢を抑えてグループN総合トップを突っ走った。残念ながら田口は、SS7でパンクに見舞われ、続くSS8で転倒を喫してリタイアとなったが、素晴らしいスピードを披露した三菱自動車ディーラーチームの快走は、2年目の開催となったラリー・ジャパンに大きな話題を振りまいたことは間違いのない。

三菱自動車ディーラーチーム inラリー・ジャパン2005

グループN首位快走を支えたディーラーメカニックたち



吉村 慎晃
東京三菱自動車販売



藤林 義孝
京都三菱自動車販売



石川 大悟
北海道三菱自動車販売



鶴見 隆司
愛知中央三菱自動車販売



久野 太志
川崎三菱自動車販売

WRCがディーラーチーム活動の舞台となるのは1997年ラリー・オーストラリア以来。KATSUは「厳しい審査を通過してきたメカニックたちでしたから、安心してマシンを託せました。それだけに一度しかラリー中のサービスを体験させてあげられなかったのが申し訳なかった」と語っていた



34	63	79	66	87	81
奴田原文雄 林 哲 PWRC2位 N 3位(総合14位)	石田雅之 澤田 茂 N 5位(総合16位)	増村 淳 福村幸則 N 9位(総合21位)	大庭誠介 高橋浩子 N 10位(総合23位)	山内伸暉(CMSC旗機) 杉村哲敏(CMSC旗機) N 11位(総合24位)	永由元人 山岸典将 N 12位(総合25位)
95	85	91	100	90	72
堀川竜二 加藤克也 N 15位(総合28位)	中田裕二 厚地保幸 N 16位(総合29位)	三好秀昌 市野 諒 N 17位(総合30位)	三谷義和 新井正和 総合31位	實作有俊 長谷川倫子 N 18位(総合32位)	荒井信介(CMSC群馬) 内田昭佳(CMSC群馬) N 20位(総合34位)
71	120	67	45	92	96
山口 修(CMSC鹿児島) 木村光洋 N 21位(総合35位)	山田政樹(CMSC大阪) 坂根昌子 N 24位(総合38位)	岩下英一 高橋昭彦 N 28位(総合42位)	リカルド・エラーニ ステファノ・カサディオ PWRC7位 N 31位(総合47位)	赤羽政幸(CMSC熊本) 赤羽隆子(CMSC熊本) N 33位(総合49位)	馬場宏治 女屋光広 N 34位(総合50位)

WRC第13戦
PWRC第7戦「ラリー・ジャパン2005」

出場全三菱車 36台全戦績

三菱自動車にとって最も大切なものが「お客様」であることは、ラリーにおいても変わりありません。2005年のラリー・ジャパンにおいても三菱自動車は、最も多くの「お客様」が出演している自動車メーカーとなりました。十勝の大地を駆け抜けた36台のランサーエボリューションは、まさに三菱自動車のかけがえのない誇りなのです。

除くワークス3台
PWRC登録エントラントは PWRC で表示

94	106	102	119	41	42
大井こずゑ(CMSC群馬)	野村幸伸 三木孝市 N 36位(総合52位)	斉藤 断 成田隼仁 N 41位(総合58位)	藤井 薫 岸本 育 N 42位(総合59位)	ナタリー・パレット カイ・リンドストローム組 PWRC SS12Jタイプ	フェデリコ・ヴィラグラ ジャビエル・ヴィラグラ PWRC SS23Jタイプ
62	70	74	76	77	80
田口勝彦 マーク・ステイシー SS8Jタイプ	田口盛一郎 廣田孝子 SS8Jタイプ	福永 修(CMSC大阪) 奥村久雄 SS11Jタイプ	ステファノ・マリニ ティジャーナ・サンドローニ SS8Jタイプ	金井雅志 木原雅彦 SS1Jタイプ	渡部洋三 池田 茂 SS29Jタイプ
82	83	98	99	114	116
丹羽浩道(CMSC千葉) 安江照明(CMSC千葉) SS7Jタイプ	ドスコイ水野 遠藤 彰 SS25Jタイプ	吉谷久俊 吉村修二 SS22Jタイプ	青木光広 青木朝香 S3Jタイプ	藤波秀彰 関口 貴 SS22Jタイプ	坂上哲司(CMSC東北) 原 信雄 SS9Jタイプ

三菱車エントラント テストランダーを実施

ラリーアートでは、今回のラリー・ジャパンに出場した全三菱車エントラントを対象とした「テストランダー」を実施。三菱自動車十勝研究所敷地内のダート路を使い、最後の総仕上げとなる事前テストの場を設けた。三菱自動車ユーザーによるモータースポーツ活動のサポートはラリーアートの最も重要な業務であり、同社では今後もこうしたユーザー本位の活動を幅広く展開していく計画である。



ユッシ・ヴァリマキ、参戦初年度でAPRCを制覇 三菱車ユーザーが通算7回目のアジア・パシフィック王座に



最終戦タイも制して4勝目を飾り、文句なしでシリーズチャンピオンを決めたヴァリマキ(右)。右とコードライバーのジャルッコ・カリオレボ、特殊な路面や気象条件に打ち勝っての価値ある王座だ

チームMRFタイヤのランサーエボリューションをドライブしたユッシ・ヴァリマキが、APRC挑戦1年目にしてシリーズチャンピオンを獲得した。APRCは全8戦中6戦のポイントが有効。田口勝彦とヴァリマキの2名を擁するチームMRFタイヤは第5戦マレーシアをスキップして第6戦インドネシアに集中。ここで1-2フィニッシュを飾り、3勝目を挙げたヴァリマキがまだ最終戦を残したこの時点で見事に王座を確定した。



(左上) ヴァリマキは三菱車でAPRCタイトルを獲得した通算6人目のドライバーとなった。(右上)優勝は北海道だけに終わったKATSUだが、結果以上の速さを印象づけたシーズンに。(左下)ニュージーランドのベテラン、ジェフ・アーガイルはコンスタントに得点しシリーズ3位に。(右下)ラリー北海道でのAPRC3位/総合5位が光ったダート・ラリー



3回目!

田口勝彦 連載コラム

KATSUのいつだってエボリューション

いろいろあったけど、いい一年でした

やっぱりラリー・ジャパンのことからお話ししたいですね。何と言うか、本当に全部がうまく行っていったラリーだったんですけど、それだけに残念な結果になってしまいました。

最初の2本のステージでは若干アンダーステアが強かったけど、それでもタイムは悪くない。陸別のステージではいつも奴田原さんに2秒は軽く負けていたんですけど、今回は若干アンダーな状況でトップタイム。「こりゃあ、結構イケそうだな」と思ったわけです。それで50.06kmのSS3を前に、僕のチーフメカニックをやってくれている大原さんと

携帯電話で相談して、ダンパーを自分で調整して、これでグッとよくなった。leg1の中盤以降は、自分では普段以上の力で走ってはいないつもりなのに、タイムがどんどん出てくる。すごくいい感じだったんです。

ところが、好運魔多しというか、2度目の50kmのSS7でも車の動きがおかしい。スローバンクチャーだったんですね。何かに当たった覚えはないのに。そして15kmくらい行ったところで交換するしかなくなって、地面が傾いてたところだったので余計に時間を食って、.....これは本当に悔しかった。とどめは次のSS8。

コーナー出口のコンクリートのギャップに跳ね上げられて転倒、となったわけです。

今回は三菱自動車ディーラーチームからの出場でしたが、自分自身は当然ながら勝ちに行っていました。とはいえ、応援してくださったみなさん、特にディーラーメカニックのみなさんには申し訳なかった。ラリーでは数10分のサービスですべての作業を確実にやり遂げなければならない。だから事前のサービス訓練では、最初は1時間半かかった作業も40分や30

分までできるようになるまで、何度でもやってもらいました。みんな本当に一生懸命やってくれました。改めてありがとうと言いたいです。

続くAPRC最終戦のタイでも転倒でした。本来ならもっと落ち込むべきなのでしょうが、変なんですけど、これで手応えをつかめた、という感じです。状況的には、ベースノートで「右8(注:ほぼ全開の右コーナー、の意)左8 70m」と読み上げてもらって、マーク(ステイシー、KATSUのコードドライバー)が4つ目のことを言おうとしたときには最初の「右8」に差し掛かっていて、ノートの読み上げが追いつかずコースアウトした、という具合です。

クラッシュ直前の70mの直線では188km/h(!)が出たというデータがロガーに記録されていました。自分の感覚では140km/hくらいのつもりだったんですけどね。クルマも仕上がって、僕らのベースノート作りもよくなったためなんですけど、自分の感覚より実際の車速の方が速くなってきた、という感じ。逆に言えば、このバランスを高い次元で取り直せば、もっと速く走れると思うことだと思います。新しい段階に入ることができた、というか.....

2006年のことはまだ決まっていませんが、いまから本当に楽しみにしています。みなさんも変わらぬ応援をお願いしますね。

Profile: 1972年2月7日、岡山県出身。日本のトップラリーリストの筆分け、田口盛一郎氏を父に持ち、22歳で海外ラリー武者修行に出る。1999年にはグループN仕様のランサーエボリューションでAPRC総合チャンピオン獲得。2004年から再びAPRCにシリーズ参戦している。株式会社ラリーアート社員



海外 国内 主要モータースポーツ 結果表

2005年9月~11月

第14戦 10月20~23日 ラリー・フランス(ツール・ド・フランス)
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 S.ロブ・エナ シトロエン・クサラWRC

FIAアジア・パシフィックラリー選手権
第6戦 9月9~11日 ラリー・インドネシア
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 トリ・アグニ・サト・エリヤン(インドネシア) 三菱ランサーエボリューション(N)

FIAクロスカントリーラリー・ワールドカップ
第5戦 9月24日~10月2日 フラオアテナ・ナショナルクロスカントリーラリー
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 S.アワール フォルクスワーゲン・ハイパー

全日本ダートトライアル選手権 N3クラス
第7戦 9月11日 門前町モータースポーツ公園(石川県)
順位 ドライバー 車両
1 荒井 信介(CMSC群馬) 三菱ランサーエボリューション

全日本ジムカーナ選手権 N4クラス
最終戦(第8戦) 9月24~25日 MINEサーキット(山口県)
順位 ドライバー 車両
1 菱井 将文 スバルインプレッサ

POINT STANDINGS

FIA世界ラリー選手権
ドライバー(全16戦終了)
順位 ドライバー マニファクチャラー 点
1 S.ロブ エナ シトロエン 127

FIAアジア・パシフィックラリー選手権
ドライバー(全8戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 J.ヴァン・マキ 三菱ランサーエボリューション 87

全日本ダートトライアル選手権 N3クラス
ドライバー(全8戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 荒井 信介(CMSC群馬) 三菱ランサーエボリューション 112

全日本ジムカーナ選手権 N4クラス
ドライバー(全8戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 菱井 将文 スバルインプレッサ 80

FIA世界ラリー選手権
第12戦 9月15~18日 ラリー・グレートブリテン
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 マン・ベルグ/P.ミリス スバルインプレッサWRC05

FIAアジア・パシフィックラリー選手権
第7戦 10月21~23日 ラリー・タイランド
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 ムラタキマキノリヨルボ 三菱ランサーエボリューション(N)

FIAクロスカントリーラリー・ワールドカップ
第6戦 11月7~13日 UAEデザートチャレンジ2005
順位 ドライバー 車両
1 S.ベテラセル フォルクスワーゲン・ハイパー

全日本ダートトライアル選手権 SA2クラス
第7戦 9月11日 門前町モータースポーツ公園(石川県)
順位 ドライバー 車両
1 北村 和浩 スバルインプレッサ

全日本ジムカーナ選手権 SA3クラス
最終戦(第8戦) 9月24~25日 MINEサーキット(山口県)
順位 ドライバー 車両
1 天満 清 三菱ランサーエボリューション

FIAプロダクションカー世界ラリー選手権
第13戦 9月29日~10月2日 ラリー・ジャパン
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 M.グロブホルム/T.ラウティヤン 三菱ランサーエボリューション(N)

FIAプロダクションカー世界ラリー選手権
第16戦(最終戦) 11月10~13日 ラリー・オーストラリア
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 F.デ・ヴル/S.スミス シトロエン・クサラWRC

全日本ラリー選手権4輪駆動部門Cクラス
第8戦(最終戦) 10月21~23日 M.C.S.971(ランドマスター2005(岐阜,長野))
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 牧田 文雄/小田切 龍之 三菱ランサーエボリューション

全日本ダートトライアル選手権 SC3クラス
第7戦 9月11日 門前町モータースポーツ公園(石川県)
順位 ドライバー 車両
1 谷田川 敬幸 スバルインプレッサ

全日本ジムカーナ選手権 SC4クラス
最終戦(第8戦) 9月24~25日 MINEサーキット(山口県)
順位 ドライバー 車両
1 谷田川 敬幸 スバルインプレッサ

FIAプロダクションカー世界ラリー選手権
ドライバー(全8戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 新井 敏弘 スバルインプレッサ 50

全日本ラリー選手権4輪駆動部門Cクラス
ドライバー(全5戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 牧田 文雄 三菱ランサーエボリューション 87

全日本ダートトライアル選手権 SC3クラス
ドライバー(全8戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 谷田川 敬幸 スバルインプレッサ 115

全日本ジムカーナ選手権 SC4クラス
ドライバー(全8戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 天満 清 三菱ランサーエボリューション 95

FIAプロダクションカー世界ラリー選手権
第6戦 9月15~18日 ラリー・グレートブリテン
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 A.デイスネ/M.デイスコネ スバルインプレッサ

FIAプロダクションカー世界ラリー選手権
第7戦 9月29日~10月2日 ラリー・ジャパン
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 新井 敏弘/T.サカマ スバルインプレッサ

全日本ラリー選手権4輪駆動部門Bクラス
第8戦(最終戦) 10月21~23日 M.C.S.971(ランドマスター2005(岐阜,長野))
順位 ドライバー/コドライバー 車両
1 高橋 浩夫/井出 達也 スバルインプレッサ

全日本ダートトライアル選手権 Dクラス
第7戦 10月1~2日 スポーツランドSUGO(宮城県)
順位 ドライバー 車両
1 B.サビテ フォルクスワーゲン 56

スーパー耐久シリーズ2005 ST2クラス
第7戦 10月1~2日 スポーツランドSUGO(宮城県)
順位 ドライバー 車両
1 宮入 友秀(CMSC長野) 三菱ランサーエボリューション

FIAクロスカントリーラリー・ワールドカップ
ドライバー(全5戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 B.サビテ フォルクスワーゲン 56

全日本ラリー選手権4輪駆動部門Bクラス
ドライバー(全5戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 高橋 浩夫 スバルインプレッサ 85

全日本ダートトライアル選手権 Dクラス
ドライバー(全8戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 高橋 浩夫(CMSC広島) 三菱ランサーエボリューション 81

スーパー耐久シリーズ2005 ST2クラス
ドライバー(全8戦終了)
順位 ドライバー 車両 点
1 西田 竜治 スバルインプレッサ 100



2005年、様々なモータースポーツシーンで大活躍を見せたCMSC選手達!!

2005年、三菱車を駆り様々なモータースポーツカテゴリでコルトモータースポーツクラブ(CMSC)に所属する選手達が大活躍を見せた。'05全日本ダートトライアル選手権では、CMSC群馬の荒井信介選手がN3クラスで5勝をマークしてのシリーズチャンピオン獲得。CMSC大阪の吉村修選手が同クラスシリーズ2位を獲得しCMSC選手が年間1-2フィニッシュを達成した。その他にも数多くのCMSC選手達が様々なモータースポーツシーンで輝きを見せ、シーズンを彩った。CMSCコルトモータースポーツクラブは、三菱車愛好者を中心としたJAF登録クラブで、東京の本部(会長:木本 勲)および全国24支部(各々独立JAF登録クラブ)から構成され、現在約700名の会員が活躍している。

祝 全日本チャンピオン獲得!!

各選手権カテゴリで活躍したCMSC最上位の選手達!!

全日本ダートトライアル選手権 N3クラス シリーズチャンピオン!!
CMSC群馬 荒井信介選手
順位 1 新井 敏弘/T.サカマ スバルインプレッサ
2 M.ヒギンズ/R.V.バロ スバルインプレッサ

全日本ダートトライアル選手権
CMSC大阪 吉村修選手
N3クラス、シリーズランキング2位
順位 1 新井 敏弘/T.サカマ スバルインプレッサ
2 牧田 文雄/林 哲 三菱ランサーエボリューション

全日本ダートトライアル選手権
CMSC広島 河内渉選手
Dクラス、シリーズランキング2位
順位 1 宮入 友秀(CMSC長野) 三菱ランサーエボリューション
2 大井 義浩(CMSC群馬) 三菱ランサーエボリューション

全日本ラリー選手権4輪駆動部門
CMSC埼玉 田口幸宏選手
Bクラス、シリーズランキング4位
順位 1 高橋 浩夫/井出 達也 スバルインプレッサ
2 河内 渉(CMSC広島) 三菱ランサーエボリューション

多くのCMSC選手が各シリーズで活躍し、シリーズ上位に名を連ねる!

その他にも数多くのCMSC選手が様々なモータースポーツシーンで輝きを見せ、シーズンを彩った。以下にシリーズ10位までのCMSC選手を紹介する。

全日本ダートトライアル選手権
CMSC広島 川崎剛己選手
N3クラス、シリーズランキング4位
順位 1 吉田 寿博/小泉 和寛組 スバルインプレッサ
2 樋口 誠也/池田 昌弘組 スバルインプレッサ

今年も鈴鹿サーキットがラリーモード一色に!

「第7回 鈴鹿ワールドラリーフェスタ2005」に三菱自動車/ラリーアート出展

The 7th SUZUKA WORLD RALLY FESTA 2005



デモ走行後ファンにこたえる6台の参加車両

今年で7回を迎えるラリーの祭典、「The 7th SUZUKA WORLD RALLY FESTA 2005」が、11月20日(日)、快晴の鈴鹿サーキットで開催。今回はSUZUKIも加わり、デモランも大いに盛り上がり。当日は9:00の開場と共にコース上に展示された「ランサーWRC05」にたくさんの人だかりができ、滅多に見ることのないWRC車両の前で写真撮影をするファンの姿も多見受けられました。また、ゲストトークショーではラリーアート木全蔵ゼネラルマネージャーとランサーエポリューションの開発に関わる三菱自動車工業の藤井啓史商品開発プロジェクトマネージャー、富士重工業スバル商品企画本部の森&菅谷プロジェクトマネージャーが、WRCの歴史や車両開発につ



参加された「RALLIART MEMBERS CLUB」会員



三菱自動車ディーラーチームサービスシーン

今回、三菱自動車のサービスシーンでは、WRC第13戦「ラリー・ジャパン」で活躍した、5名のディーラーメカニック達が再集合して、サービスシーンを披露しました。会員はバリエーションとして大迫力の特設観戦エリアから、その作業をチェック。その作業の正確さとスピードには、思わずため息がもれていました。さらに今回の大きな特典は、通常入ることのできないF1の表彰式が行われるポディウムで、デモランを観戦できるというもの。奴



5名のドライバートークショー

田原文雄、田口勝彦の2選手がランサーエポリューションで、SUBARUの新井敏弘、勝田範彦、鎌田卓麻の3選手がインプレッサで、そして今回は初参加となるSUZUKIがスイフト スーパー1600を登場させました。ファンはラリーカーの素晴らしいサウンドに魅了。ポディウムで観戦した会員達も大いに盛り上がりました。ラリーアートブースでは、(株)ユージンの協力で世界に1台しかない大型ガチャガチャが出現し、通る観客を圧倒。このガチャガチャはなんと高さ3m68cmという大きさと、カプセルの大きさは普通のカプセルの約4倍(直径約20cm)。このカプセルの中身にラリーアート商品が入っており、1日で3回行われました。その他にも「ラリー・ジャパン」グッズなどの特別販売、キッズコーナーなども設けられ、ラリーアートブースは1日中、大盛況でした。



三菱自動車/ラリーアート出展ブース

三菱車オーナーが1000人以上も大集合!

「第2回 Mitsubishi Motors Fan(MMF) OWNER 'S MEETING in 水島」にラリーアート出展

三菱自動車の水島製作所駐車場にて、11月13日(日)、三菱車オーナーの皆さんによる「第2回 Mitsubishi Motors Fan(MMF) OWNER 'S MEETING in 水島」というファンの集いが開催されました。「そして、未来が始まる」をテーマに、会場には総勢480台、30車種の三菱車が車種ごとにずらりとならび、1,000人以上の三菱車オーナーの方々が全国から集結。その1台1台の車にもオーナーの個性、チューニングやカスタマイズなどさまざま

まな車へのこだわりが見え、そして大切にされているように見えた。ラリーアートも今回で2回目の参加。ランサーWRC04をはじめとするモータースポーツ車両やラリーアートのチューニングカー等の展示、ラリーアートピット岡山によるラリーアート商品販売コーナーを設置しました。このイベントを通じて皆さんと交流することでき、とても勇気付けられ、感動することがばかりのイベントでした。三菱車オーナーの皆さん、ありがとうございました。

こちらをご覧ください。 → Mitsubishi Motors Fan(MMF)事務局 <http://mmfan.org/>

イベント風景



三菱車オーナーの皆さん大集合!



会場ではランサーWRC04を展示



ラリーアートチューニングカーも展示



ラリーアート・メンバーズクラブ

RALLIART MEMBER'S CLUB(RMC)

DRIVER of the YEAR

05年国内チャンピオン5名が表彰

「2005年三菱自動車/ラリーアートドライバー・オブ・ザ・イヤー」表彰式



12月1日、都内にて「2005年三菱自動車/ラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤー」の表彰式が行われ、奴田原文雄(全日本ラリー選手権四輪駆動部門Cクラスチャンピオン、受賞7回目)、荒井信介(全日本ダートトライアル選手権N4クラスチャンピオン、受賞3回目)、茅野成樹(全日本ジムカーナ選手権N4クラスチャンピオン、受賞2回目)、天満 清(同選手権SA3クラスチャンピオン、受賞3回目)、谷森雅彦(同選手権SCクラスチャンピオン、受賞4回目)の5選手が表彰を受けた。

「三菱自動車/ラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤー」は、日本国内・海外のラリーやレースに三菱車で参戦し、チャンピオンを獲得するなど活躍したドライバーに贈られるもので、今回は第19回目となる。また海外では、2003年からFIAプロダクションカー・ワールドラリー選手権(PWRC)、および地域ではアジア・パシフィックに限定してドライバー表彰を行っているが、今年はFIAアジア・パシフィックラリー選手権(APRC)でチャンピオンを獲得したユッシ・ヴァリキ選手(フィンランド)が初受賞となった。同選手の表彰は、現地三菱自動車販売会社を通じて行われる。

なお、国内では1987年以来今年までで延べ87人と9チームが、海外では延べ100人が受賞している。

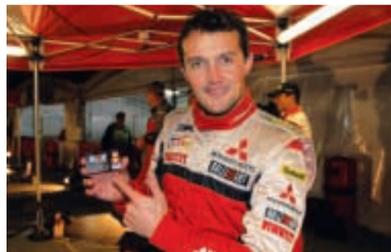
より便利に、より多い特典に

RALLIART MEMBER'S CLUB発足&「三菱自動車ラリーアート・Diaカード」誕生

RALLIART MEMBER'S CLUB(略称: RMC)は「クラブラリーアートピット」、「ラリーアートピット・メンバーズクラブ(RPM・CLUB)」を前身とし、ラリーアートファン、三菱自動車ファン、モータースポーツファンのための会員クラブとして10月1日に発足したクラブです。今回の三菱自動車Diaカードとの提携により、全国の三菱自動車販売店の特典も加わった「三菱自動車ラリーアート・Diaカード」が誕生。全国の会員の皆様へより近い場所での特典を用意することが可能になりました。

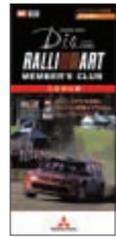
今後は全国の三菱自動車販売店の特典や各オーナーズクラブとの連携、ワークス活動の情報も充実し、「RALLIART MEMBER'S CLUB(RMC)」を、より三菱自動車およびラリーアートのかけがえのないファンクラブとしていきます。

【年会費】RMC年会費5,250円 + クレジットカード年会費1,312円(初年度無料)



ワークスチームドライバー、ジジ・ガリ選手

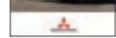
詳しくはこちらをご覧ください
http://www.ralliart.co.jp/members_club/index.html



三菱自動車ラリーアート・Diaカード NEWカード申込書



三菱自動車ラリーアート・Diaカード NEWカード申込書



三菱自動車ラリーアート・Diaカード NEWカード申込書

Industrial Beauty

[機 械 美]



スポーツリヤウイング

エアロパーツはクルマ全体の空気抵抗を減らしたり空気スムーズに流すために、綿密な設計がなされている。また、この空気の流れを上手に使うことで、ボディが浮き上がることを防いだり、横風が吹いた場合の直進安定性の向上など、さまざまな目的を持っている場合もある。

ラリー競技はもちろんのこと、F1やGTなどの近代のモータースポーツにおいては、空気の流れを読むこ



素材はFRPで軽量。形状は機能を優先したウィングタイプ

とは非常に重要。エアロパーツに風を当てることによって車両を浮かないようにすることは、つまり車両を路面に押し付けているということでもある。これでタイヤのトラクション性能が向上するわけだ。しかしむやみに押し付ける力が大きすぎると、それは抵抗を増やすだけで逆効果となる。空力(エアロダイナミクス)専門の企業や技術者、デザイナーたちは、「空気の壁」を味方にできるようにさまざまなアイデアでデザインしている。

スタイルやデザイン優先のエアロパーツでは、空気抵抗の実験を実際に行わない場合も多く、実際には装着することで逆効果になる場合がある。ラリーアートがランサーエポリューションワゴン用に開発したスポーツリヤウイングは、ルーフ部の空力性能を向上させるためのエアロパーツ。リヤウイング単体での設計ではなく、スポーツフロントアンダースポイラーとの共着で、性能をフルに引き出せるよう設計している。実際に三菱自動車の実車風洞試験装置を使用して、テストで確認作業も怠らない。

エアロパーツを装着することで、車両のシルエットがよりスポーティになれば、なおうれしい。さらにスポーツリヤウイングは、ランサーエポリューションワゴンに装着されたリヤディフューザーとカラーをコーディネート。運転中には分からないが、他車両のドライバーからのチェックを受けることは間違いなし。空気を味方にしてよりスポーティなドライブを楽しみたいあなたに。



実車風洞試験設備で入念なチェックが行われている

RALLIART NEW PARTS

さらにスポーティな味付けのSUVに

アウトランダー用「スポーツアーシングシステムキット」発売



バッテリーのマイナス端子から3本のケーブルで電装部品やエンジンブロックなどに直接アースを取り、電気の流れをスムーズにし、クルマが本来持っているポテンシャルをより発揮させるシステムです。本キットを装着することにより、点火系、モーター類、ランプ類等の各電気系統に必要な電力を安定供給することが可能になります。なお、ケーブルは15SQメッシュを使用し、半透明青色被覆は耐熱110℃、黒色RALLIARTロゴ入り。バッテリー接続部付近にはRALLIARTロゴチューブ付きです。

また、高電圧・高電流に対応すべく本体および端子接合部に独自の新技术を投入し、線と端子を一体化させ、線密度を向上させたことにより超低抵抗値を実現しました。

高性能アルミホイールとグリップアップのタイヤをセットに

「スポーツアルミホイール&タイヤ」発売



軽量・高剛性・高強度を実現しブレーキ冷却性能に優れたアルミホイールと耐摩耗性とグリップ力を向上したタイヤをセットにしたものです。ホイールはENKEIと共同開発。ガンメタリック色のブレーキ冷却性能の優れた12本バルブスポークデザインの「スポーツアルミホイール RA04」で、「より軽く、より強く。」を追求した次世代ホイール製造技術である「MATプロセス」を採用により軽量・高剛性・高強度を実現しました。またタイヤは、環境性能に走りの性能をプラスした第3世代DNAタイヤであるYOKOHAMA製「DNA S.drive」を採用。新開発「ナノパワーゴム」により耐摩耗性とグリップ力を向上しました。

*「MAT(Most Advanced Technology)プロセス」
鍛造ホイールおよび2ピースホイールのリム成型方式「スピニング製法」を鍛造1ピースホイールの製法に採用。鍛造品ならではの造形性の高さ・低コスト性に鍛造品の優れた強度・高さを併せ持つENKEI独自の最新技術。

取付用ホイールナットは、標準品と異なるため、「RALLIARTラグナット(ホイールナット)」または「サーキットタイプのホイールナット」が別途必要です。

アウトランダー用設定商品

商品名	商品番号	税込価格(本体価格)	備考
スポーツアーシングシステムキット NEW	RA0550151	19,425円(18,500円)	アーシングケーブル3本構成
スポーツアーシングケーブル ブラックレド	RA890520N23	2,940円(2,800円)	標準開弁圧108Pa(1.1kg/cm ²)
RALLIARTルーフカバー	RAY69012	11,760円(11,200円)	樹脂製カーボンブラック仕上げ、RALLIARTシルバークロム入り
RALLIARTアルミホイールセンターキャップ	RAY65007	5,985円(5,700円)	標準18インチアルミホイールMN184278装着車のみ
RALLIARTエアリッドキャップ	RAY65006	2,940円(2,800円)	4個セット、ブラックローテクギン製
RALLIARTライセンスプレートホルダー	RAY67014	2,100円(2,000円)	2個セット、ネジ部15mm
RALLIARTライセンスプレートカバー	RAY67015	3,360円(3,200円)	前後装着可、ただしリヤは封印後装着不可
RALLIARTエクストリームホワイトバルブ	RAY66008	8,190円(7,800円)	ロービーム、除くH/D
RALLIARTエクストリームホワイトバルブ	RAY66008	8,190円(7,800円)	ハイビーム
RALLIARTリザーバータンクブラケット	RAY67009	1,260円(1,200円)	トロンク(アラブ)専用

「スポーツアルミホイール&タイヤ(4本セット)」内容

商品名	商品番号	税込価格(本体価格)	備考
スポーツアルミホイール&タイヤ(4本セット)	RA184113S1	204,750円(195,000円)	18×8.5J、+35.5穴(PCD114.3)、235/40 R18 専用アダプター(1本付)
	RA125837S1	141,750円(135,000円)	16×7.0J、+43.4穴(PCD100)、205/45 R16

「スポーツアルミホイール RA04(1本)、RALLIARTラグナット(ホイールナット)」内容

商品名	商品番号	税込価格(本体価格)	備考
スポーツアルミホイール RA04(1本)	RA184113P1	50,400円(48,000円)	18×8.5J、+35.5穴(PCD114.3) 専用アダプター(1本付)
	RA125837P1	33,600円(32,000円)	16×7.0J、+43.4穴(PCD100)
RALLIARTラグナット(ホイールナット)	RAY65005	19,950円(19,000円)	5穴車用20個セット
	RAY65004	17,325円(16,500円)	4穴車用16個セット

【適合車種】

18インチ ランサーエポリューションIX-VIII(CT9A)、ランサーエポリューションワゴン(CT9W)、エアトレック(CU2W、CU4W、CU5W)
16インチ コルト(Z21A、Z22A、Z23A、Z24A、Z25A、Z26A、Z27A)、コルト プラス(Z23W、Z24W、Z27W)

機能を追求したRALLIARTクルーバッグ登場!

ノート型PC専用ポケット付き。機内持ち込みOK(Small,Middle)なユーティリティバッグ

RALLIARTクルーバッグは、メインルームにノートPC用のフラップ付きウレタンポケットを備え付け、さらにすべての部屋の仕切りにウレタンを入れているので、どこに付属品、周辺機器を入れても安心。本体1周にわたるファスナーを引

けば、マチが7cm広がり、容量もたっぷり(Smallのみ)。また、ハンドル付け根は、生地を大きく裁断し深い位置までテープを入れたバータックで強化しています。さらに、ショルダーベルトにはゴムパッドを使用して滑りを防止しています。

RALLIARTクルーバッグ

カラー:ブラック
生地:ナイロン、キャリー:アルミパイプ
ショルダーベルト付き、「RALLIART」ロゴ入りIDタグ付き、「RALLIARTアイコン」マークビスネーム付き。



Small

RAY41093S
¥13,650(本体価格¥13,000)
サイズ:41×31×11(+7)cm

Middle

RAY41094M
¥18,900(本体価格¥18,000)
サイズ:43×33×18cm

Large

RAY41095L
¥25,200(本体価格¥24,000)
サイズ:50×39×23cm



middle・large サイズの主な機能及び仕様

※middleとlargeの機能及び仕様は多少異なります。

●重量3.7kg ノート型PC対応可能なPCルーム



ウェア、グッズなど、豊富なラインナップを取り揃えた2005-2006 AUTUMN/WINTERコレクション好評発売中!!

通信販売のご案内

お電話 フリーダイヤル☎0120-321466(9:30~18:00/月~金曜日[土曜日、日曜日、祝日は休ませていただきます])携帯電話、PHSからの場合は☎03-5486-7356
FAX フリーダイヤル☎0120-707655(24時間受付) インターネット <http://cybershop.ralliart.co.jp>

お求めは上記通信販売またはラリーアートピット各店、全国の三菱自動車販売会社へ。 カタログご希望の方は下記の請求券にてお求めください。

イベント | EVENT

サブライズカーも登場!? 「東京オートサロン2006 with NAPAC」に出展



写真はオートサロン2004

2006年1月13~15日に、千葉・幕張メッセ国際展示場において、チューニングカー&ドレスアップカーの祭典「東京オートサロン2006 with NAPAC」が開催され、ラリーアートも三菱自動車ブースに出展を予定しています。

展示車両は、ランサーエボリューションワゴン Tuned by RALLIARTが2台(MTとAT)とスポーティな味付けを施したサブライズカーとなる予定です。またWRCで活躍したランサーWRC05やスーパー耐久シリーズ用車両も展示予定です。

また、新開発のマフラーやエアロパーツなどのラリーアートパーツ、ドライビングサンングラスなどのキャラクターグッズを展示。特別価格を設定した物販コーナーも展開予定です。さらに、バリダカ速報ボード、ラリー映像放映、ラリー・ジャパンなどモータースポーツコーナーを設けます。さらにラリーアートメンバーズクラブ入会キャンペーンを実施します。

なお、13日PMは一般特別公開、14~15日は一般公開。イベントの詳細は公式サイト(www.e-autosalon.net/tokyo)にて。

ラリーアートピット | RALLIART PIT

「ラリーアートピット帯広」オープン



「ラリーアートピット帯広」は、帯広三菱自動車販売(株)

ラリーアートピット帯広 〒080-0301 河東郡音更町木野大通西14丁目
TEL:0155-30-5511 担当:大井、小林、力丸 <http://www.coltmotor.com/>

「ラリーアートピット鹿児島」オープン



「谷村モータース」として、三菱車の販売、修理を続ける一方、モータースポーツ愛好家の要望に応え、サーキットでのスポーツ走行会を企画し運営してきました。ラリーアートピット鹿児島の基本コンセプトは、「ノーマル車両本来の基本性能を最大限生かすこと」で、これを元にこれまでのモータースポーツに携わって蓄積してきたノウハウを生かし、クルマのチューニングに努めています。

ラリーアートピット鹿児島 〒899-1624 鹿児島県阿久根市大丸117-1
TEL:0996-72-0225 担当:谷村

音更店内にあります。三菱車の販売、修理の他、ラリー北海道等の国際格式ラリーを支援してきた帯広三菱自動車が、モータースポーツ愛好家の要望に応え、本格的にRAピット店として運営することになったのですが、モータースポーツに限らず、一般ユーザーのカスタマイズカーの相談にも応じる専任体制をとっています。

ラリーアートピット帯広では、ラリーアート商品の展示・販売を行っています。専門スタッフがモータースポーツ、RV車、一般車など楽しいカーライフのご相談をお待ちしています。



編集後記

「編集後記見ましたよ」と言われると嬉しいものです。いつも読んでくれている読者の皆様、ありがとうございます。(細田)

ラリーアートジャーナル Vol.112

発行:2005年12月9日
編集:株式会社ラリーアート
〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-5
ハーバーワンビル3F
TEL:03-5479-2357 FAX:03-5479-2362



ラリーアートパーツ2005フルラインナップカタログ請求方法

ラリーアートパーツを掲載したカタログをご希望の方は、1月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書か官製ハガキでお申し込みください。
宛先:〒107-0052 東京都港区赤坂6-19-40-403 「ラリーアート係」

ラリーアートCOLLECTION2005-2006 AUTUMN/WINTER請求方法

カタログをご希望の方は、1月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書か官製ハガキでお申し込みください。
宛先:〒154-8691 世田谷郵便局私書箱6号「ラリーアートコレクションカタログ係」

有効期限:2006年1月31日
ラリーアートジャーナルVol.112
請求券
2005-2006 AUTUMN/WINTER
請求券
有効期限:2006年1月31日
ラリーアートジャーナルVol.112